

コラム

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース 公開日: 2020-01-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩崎, 香音, 小粥, 洋, 小田, 望央, 四宮, 巧, 平田, 千遥, 吉田, 有里 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027021

コラム



みんなでカルタ
撮影：小田 望央

憧れの興津川

岩崎香音

私は東京出身で（といっても都心のほうではなく郊外だけ）あまり自然の多い環境に育ったわけではありませんでした。そのせいか興津川のような大きくて綺麗な川がある環境が憧れていたし、そういうところで子ども時代を過ごしてみたかったなとずっと思っていました。だからインフォーマントさんの子ども時代の川に関するエピソードを聞いているとき実は羨ましかったです。

でも今回の FW 実習でそんな叶えられなかった幼少期の代わりではないけれど、川にたくさん関わることができて、思い出がいっぱいできてとても楽しかったです。そんな素敵な経験ができたのは、調査にご協力いただいた興津の皆様のおかげです。興津、そして興津川が大好きになりました。本当にありがとうございました。



取材中に鮎釣り名人の以田清さんにアユを頂いて、人生で初めてアユを食べました！

（一匹釣るのだけでも大変なのに、先生や同じコースの仲間の分まで下さいました。ありがとうございました。）

人生初のアユはちょっと苦かったけれど、それもまた美味しくて頭からしっぼまでまるまる食べられました！



獲れたてのアユはきらきらしていて、とても綺麗でした。

興津で過ごした5日間のフィールドワークはとても密度の濃い時間でした。いうなれば、「天空の城ラピュタ」のラスト 20 分みたいなものでした。やっとラピュタを見つけたかと思えば、ムスカ大佐と追いかけてこして、気づくと最後には滅びの言葉を言っていた、そんな密度の濃い時間だったなあ感慨深い思いです。行く前までは、順風満々とはいかないまでもなんとなくうまくいくだろうと思っていました。一通りのレクチャーを受けているし、調査で行き詰まることはないだろうという思いがありました。しかし、フィールドワーク中はその思いとは裏腹に調査が上手くいかなかったと思うことも多くありました。インフォーマントの方とメモを取りながら一対一、もしくは一対二でお話を聞くというような体験はかなりの気力を消耗しました。普段の生活とはあまりに違う毎日で、楽しいと大変が同時に襲ってきました。普段よりも一段も二段も深い話を先生や同期たちとはしていたような気がします。そのおかげで、興津という場所が自分の中で特別な場所の一つになりました。なぜか実習中に一人プロテインを飲んでいただけが謎です。



興津温泉の前でみんなでピース！

興津 いろいろ

小田望央

行く前は不安だらけだった五日間のフィールドワークでしたが、インフォーマントさんや周りの環境に恵まれ、楽しく調査することができました。日中はインタビューの合間に興津を歩き回り意外なものや素敵なものを見つけ、夜は旅館で振り返りをしつつみんなとたくさん話して充実した5日間でした。



おいしいたい焼き屋さん



興津川流域めぐりカルタ



みんなで夜ご飯 頑張って撮ってくれたけど6人入らなかった

ずっと行きたかったカフェ、茶楽に行けなかったのが心残りなのでまた行こうと思います。興津は優しくて美味しくて素敵なところでした！

興津の山道

四ノ宮巧

5日間のフィールドワークでは、興津の農業について調査しました。杉山和夫さんにインタビューをした際、興津の山に張り巡らされている農道を車で案内していただきました。急な斜面にある農道でのドライブはまるで冒険しているかのようでした。また、山の上から見下ろす興津の町並みや海岸線、清見寺の山の向こうに見える静岡市の景色はとても綺麗でした。この農道が作られたときに記念に置かれた石碑にも案内していただきました。農道が整備された当時は、ミカンの価格暴落のちょうどそのときで、その石碑には当時のミカン栽培の大変さやこれからのミカン栽培への不安が皮肉めいて書かれていました。



農道から見た興津の町（四ノ宮撮影）



写真 農道開通の記念碑（四ノ宮撮影）

興津 思い出

平田千遥

さかのぼること三年前、勢いだけで誰も知っている人のいない静岡へ進学した。当然県内の地名など浜松、静岡、伊豆、熱海くらいしか知らず、正直なところ、今でもすべてを正確には理解しているわけではない。そんな状態だったため、調査地が興津と発表された時、JRで通ったことはあるが、いったいどういうところなのだろうと思った。しかし実際に興津を散策すると、色々なもの出会い、思い出ができた。



霧囲気のある宗像神社



お蕎麦屋さんからいただいた立派な生椎茸



一目惚れした興津の夕焼け



楽しかった興津の夜

調査全体を通じて、通りすがりの私に地域の歴史をわかりやすく教えてくれる方、おいしい夕ご飯に連れて行ってくれた方、清見寺から見ることでできた綺麗な夕焼けや海など、本論には書ききれないほどのご縁があった。もちろん最初は調査結果の言語化への難しさや報告書への不安を感じることもあったが、次第にこの縁を無駄にしないよう書き上げたいという気持ちが強くなっていった。

実習が終わるころには、すっかり興津が好きになっていた。静岡に来て、興津で様々な素敵な経験ができて、三年前の決断は間違っていなかったなと思えた。ありがとうございました。

興津の美味しいもの

吉田有里

「あんこのふるさと」興津は、日本の製あん業の発祥の地である。興津には、あんこを使った甘味の名店が数多く立ち並ぶ。私は、今回のフィールドワーク中にあんこをたらふく食べることを裏目標にしていたのである。実習で出会った、あんこスイーツとさらに、あんこだけではなく、興津の美味しいものについて書いていきたい。



『ベイクドハート』のあん
バターパン
あんことバターの罪な組
み合わせ。



『ふなじ うしほ屋菓子店』
の Nama Dora とシュークリ
ーム
中身がぎっしりで満足感が
すごい。



『潮屋』の柏餅
甘すぎず、上品な味わい。
無限に食べられる。



『桐林』の豚足カレー
とろとろの豚足とアツアツなカレ
ー、おいしくないわけがない。



『興津温泉』のすき焼き
みんなで食べて、おいしさ倍増。

興津のグルメは食べる手を止められないほどの魅力が満載で、私の体を一回り大きくさせる力を持っていた。おいしいものに支えられて実習を乗り越えることができたと本当に思う。是非また興津に足を運び、また食べたいもの、まだ食べたことないものに出会いに行きたい。